

二年生 国語

文法①

～一年生の復習～

準備するもの

- 文法ノート(学校で使っているテキスト)
- ワーク(一年生で使ったもの)
- ノート(できれば文法用と授業用分けたほうがあとで見やすいですが一緒でもいいです。)

文法①

～一年生の復習～

これから四時間で一年生の文法の復習を行っていきます。

文法については、三年間かけて学習していきますので、積み重ねが大切です。

練習問題をたくさん解きながら、理解して行ってください。

では、学習をはじめていきます。

最後のページにノート用のスライドがあるので、ノートに書き写しましょう。今回は復習ですので、一度授業で書いていると思いますが、もう一度書きましょう。

わからないときや書き写すときは一時停止ボタンを押しましょう！

二年生 国語①

文法 く一年生の復習く

★言葉の単位

()に当てはまる言葉の単位を入れてみよう！！

大 一番大きな言葉の単位で、一つの内容を表わす全体のことを()という。

文章の中の内容を分けた一まとまりのことを、()という。

あるまとまった内容を表わした、一続きの言葉を()という。

意味を壊さず、不自然にならない程度にできるだけ小さく区切った一まとまりを()という。

小 意味や働きを持った、それ以上分けることのできない、言葉の最小の単位を()という。

① 言葉の単位

大

一番大きな言葉の単位で、一つの内容を表わす全体のことを(文章)という。

文章の中の内容を分けた一まとまりのことを、(段落)という。

あるまとまった内容を表わした、一続きの言葉を(文)という。

意味を壊さず、不自然にならない程度にできるだけ小さく区切った一まとまりを(文節)という。

小

意味や働きを持った、それ以上分けることのできない、言葉の最小の単位を(単語)という。

文章…いろいろな形式のものがあります。

小説、説明文、エッセイ、詩、短歌など

段落…段落には二種類あります。

○形式段落(小段落)書き出しを一字さげて書いた一まとまり。

○意味段落(大段落)形式段落をまとめた内容上の段落。

文…文の終わりには句点(。)や感嘆符(！)をつけます。

後で書き写す用のページがあるので、まだ書かなくていいです！

次は、**文節**の区切り方の復習です。

僕は妹に漢字の書き方を教える。」



この文を文節に分けてみてください。



僕は妹に漢字の書き方を教える。

ネ
ネ
ネ
ネ
ヨ

五つの部屋に分かれているので、「この文の文節は五文節！」



文節の終わりに「ネ」(最後は「ヨ」)を入れるのがポイントでしたね！

次に、**単語**の分け方についての確認です。



僕は妹に漢字の書き方を教える。」



あわてないで！まずは文節に区切ってからだよ！！

この文をさらに単語に分けてみましょう。

答え

僕は妹に漢字の書き方を教える。

全部で九つの単語に分けられたかな？



青まると黄色まるの違いは何だろうか？
何か法則性はあるかな？

僕 は 妹 に 漢字 の 書き方 を 教える。



そうです、分けた全ての単語は自立語と付属語に分類されます。

では、自立語と付属語とはどのようなものだったでしょうか。

○ 自立語・・・それだけではっきりとした意味があり、単独で文節が作れる単語のこと。



自立語は・・・

☆一つの文節に必ず一つ！

★必ず文節の先頭に来る！

○ 付属語・・・それだけで意味がはっきりせず、単独で文節が作れない単語のこと。



付属語は・・・

☆一つの文節に含まれない場合も複数ある場合もある！

★必ず自立語の後につく！

今日の学習はここまでです。思い出しましたか？

初めにも言いましたが、文法は繰り返し問題解いて理解していくものです。

文法ノートのP4、P11、ワークP34、35を復習しよう。特に文節や単語に分ける練習をしておきましょう。

すでにやってありますが、答えをかくすなど工夫をして、繰り返しやりましょう！

文法①

～一年生の復習～

★言葉の単位

大 一番大きな言葉の単位で、一つの内容を表わす全体のことを(文章)という。

文章の中の内容を分けた一まとまりのことを、(段落)という。

あるまとまった内容を表わした、一続きの言葉を(文)という。

意味を壊さず、不自然にならない程度にできるだけ小さく区切った一まとまりを(文節)という。

小 意味や働きを持った、それ以上分けることのできない、言葉の最小の単位を(単語)という。

文節の区切り方

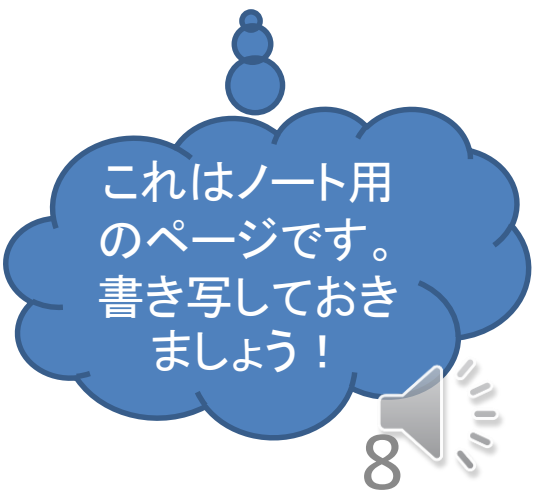
僕は／妹に／漢字の／書き方を／教える。

五文節

単語の分け方

僕／は／妹／に／漢字／の／書き方／を／教える。

九単語



分けた全ての単語は自立語と付属語に分類される。

○ **自立語**：…それだけではっきりとした意味があり、単独で文節が作れる単語のこと。

☆一つの文節に必ず一つ！

★必ず文節の先頭に来る！

○ **付属語**：…それだけで意味がはっきりせず、単独で文節が作れない単語のこと。

☆一つの文節に含まれない場合も複数ある場合もある！

★必ず自立語の後につく！